

## ■日本経済新聞(2012/10/8 朝刊)に当社記事が掲載されました。

### 中小映画館、個性で勝負、キネマ旬報社、運営に参入、ギンレイ、新作避け仕入れ費減。

「ミニシアター」などと呼ぶ中小映画館が、鑑賞傾向を分析して上映作を選ぶ手法などで生き残りを図っている。映画雑誌の老舗、キネマ旬報社(東京・港、清水勝之社長)は中小館の運営受託に参入する。シネマコンプレックス(複合映画館)の台頭で館数は減ったが、封切りではない「新古作品」に絞って調達コストを下げるなど黒字を実現している例もある。

キネ旬は第1弾として、貸会議室最大手のティーケーピー(TKP、東京・中央、河野貴輝社長)と組み、来年1月から千葉県柏市で映画館の運営を始める。同映画館は柏駅に直結したビル内にあるが、今年3月末で閉館していた。

キネ旬はインターネット上で無料で映画の鑑賞記録を作成できる映画ファン向けサービスのデータも活用。約1万人のデータをもとに、柏市周辺の人気が高いジャンルなどを割り出し、作品選びに生かす。

TKPは映画館を保有する東武鉄道グループと賃貸借契約を結び、映画の観客が少ない時間帯には講演会やセミナーなどの多目的ホールとして利用する。

ギンレイシネマックス(東京・新宿、加藤忠社長)が運営する飯田橋ギンレイホール(東京・新宿)は1スクリーン206席と小ぶりながら、年間約15万人を動員し、営業黒字を維持している。上映するのはほとんどが封切り後1年以内の作品で、2週間ごとに作品を入れ替える。

新作の場合、収入を配給会社側と映画館で分け合う歩合制が基本で、配給会社から5~6割を取る場合が多い。ギンレイの場合は原則、作品1本につき一定額を支払う契約で、仕入れコストを抑えられる。

通常料金は2本立てで1500円。会員になれば年間1万500円で見放題という割引サービスもあり、話題作を数多く割安な価格で見たい映画ファンを囲い込んでいる。入場者の3分の2を会員が占める。

広島市中心部の百貨店内で「八丁座」を運営する序破急(広島市、蔵本順子社長)は、高齢者などを取り込んで営業黒字を確保している。

八丁座は閉鎖された映画館を全面改装し、約2年前にオープンした。時代劇撮影に使っていたふすまやちょうちんを飾るなど江戸時代の芝居小屋を意識した造りが特徴。ゆったりとしたソファのような座席などを取り入れたことも受けた。

東京・新宿で「新宿武蔵館」を運営する武蔵野興業は、12月をメドに近隣に2スクリーンの映画館を開館する。同社が映画館を新規開館するのは14年ぶり。ハリウッド作品のような大作を避け、韓国や香港の作品などを含め幅広く上映する。「選択肢を増やし相乗効果を生み出す」(河野義勝社長)狙いだ。

## ■日本経済新聞(2012/10/8 朝刊)に当社記事が掲載されました。

### 小規模映画館、10年で6割減 厳しい環境続く

中小映画館を取り巻く環境は厳しい。2011年末までの10年間で、スクリーンを1カ所で5つ以上持つシネマコンプレックス以外の映画館のスクリーン数は約6割減った。映画のデジタル化に伴う設備投資負担ができず、一段の廃業増加も予想される。

気を吐く中小館に共通するのは、顧客の絞り込みと高い専門性だ。年数十回も映画館に足を運ぶ映画好きの満足度を高める作品選定はもちろん、料金体系や施設面の工夫も欠かせない。シネコンや都心のターミナル駅近くに立地する大型映画館と一線を画して個性を打ち出さなければ埋没してしまうからだ。

キネマ旬報社の運営受託の第1弾となる千葉県柏市の映画館では、上映だけでなく、施設運営のノウハウを持つティーケーピーとの「異業種連携」で映画館を多重活用することによって稼働率を確保する戦略だ。効果を発揮すれば、両社の連携が第2弾以降にも広がる可能性がある。

大手流通チェーンに押され地場小売業が苦戦するなど、映画館運営と似た構図は様々な業種にみられる。中小映画館の生き残りの取り組みは中小企業経営のヒントにもなりそうだ。

## ■日本経済新聞(2012/10/9)に当社記事が掲載されました。

### キネマ旬報、初の映画館 来春開業

日本を代表する映画雑誌「キネマ旬報」を発行するキネマ旬報社は9日、貸会議室業のティーケーピー(東京)と業務提携し、映画館の運営事業に参入すると発表した。

キネマ旬報社の映画館運営は初めて。今年3月に閉館した千葉県柏市の映画館をティーケーピーが賃借し、キネマ旬報社が運営を受託する。

劇場は最大3スクリーンで、来春オープン予定。雑誌などと連動して新作や過去の名作を上映する。他の劇場運営や映画の上映会なども今後検討するという。

各地の中小劇場は、設備のデジタル化を迫られるなどして閉館が目立つが、キネマ旬報社は「新たな劇場で多様な映画を見てもらい、映画文化に寄与したい。読者のニーズに応えることにもなる」としている。[共同]

## ■サンケイスポーツ(2012/10/10)に当社記事が掲載されました。

### キネマ旬報社が映画館事業に参入、千葉・柏に

日本を代表する映画雑誌「キネマ旬報」を発行するキネマ旬報社は9日、貸会議室業のティーケーピー（東京）と業務提携し、映画館の運営事業に参入すると発表。キネマ旬報社の映画館運営は初めて。今年3月に閉館した千葉県柏市の映画館をティーケーピーが賃借し、キネマ旬報社が運営を受託する。

劇場は最大3スクリーンで、来春オープン予定。雑誌などと連動して新作や過去の名作を上映する。他の劇場運営や映画の上映会なども今後検討するという。